



# 岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

## 令和元年度 高教研講演会

### 「人生という名の旅『大人になるための支援』

### ～学校で育てたい資質・能力とは～

### アンケート結果

7月30日行われました高教研講演会で寄せられた感想等についてまとめました。

ご参加頂いた皆様には、これらの感想等をあらためて見て頂くことで、今回の講演会の振り返り等に活用して頂ければと考えます。なお、講師の小栗正幸先生からは掲載の許可を得ていることを申し添えます。

#### <講演・ワークショップで学んだことや感想 ①>

・不登校対応についてとても興味深く話を聞くことができました。1つの方向しか考えていませんでしたが、「きっかけ」と「原因」が異なることが多い。解決するために「どんな課題が起因しているのか」見立てることの大事さを知り、今後学んだことをいかしたいと思います。また、支援学級の子どもたちだけでなく、普通学級の中にも配慮が必要な児童が近年増加している現状。どのような対応をしていかなければならないのか日々悩んでいます。今回の学習会をとおり、目の前の子どもたちが豊かに生活できるように1つでも学んだことを実践できればと思います。(小)

・今、担任している子どもたちが、20代になったときにどういう姿になってほしいのかを考えて日々の教育をしていくことが大切だと感じました。仲良し課題、勝ち負け課題を乗り越えていけるような取り組みをしていきたいと思っています。こだわりにこだわらない支援を心がけていきたいと感じました。小栗先生をはじめ、多くの先生方から様々な対応の方法をお聞きすることができ、とても有意義でした。(小)

・メタ認知が不調だと説諭や傾聴受容という方法がうまく機能しなくなるという内容が、今までやってきたことがうまくいかなかった1つの要因かもしれないと気づき、本当に驚きました。対話と会話の違いや「こだわりにこだわらない」という対応についても目からウロコでした。すべてのお話が貴重で消化し切れていない自分がおりますが、その子の自己実現の姿(大人の姿)をイメージすることが大事であり、先生が具体的に教えてくださった言い回し等によって「やりとり」のスタートラインをつくって、肯定的フィードバック等で関係をつくっていくことを意識したいと思います。6歳の自分の娘にも試してみたいと思いました。ありがとうございました。(小)

・支援は足し算。うまくいき始めたら引き算していくということ。20代半ばでどのような姿で輝いてほしいかというイメージを持つこと。メタ認知の不調でいろいろな場面でのつまづきを生んでいることと、その子への対応の仕方。将来を見据えた4つの発達課題。不登校のきっかけと原因は分けて考えること。LGBTの支援(これはまだまだ学習が必要)。全ては人権意識につながるということ。(小)



# 岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

令和元年度 高教研講演会

「人生という名の旅『大人になるための支援』～学校で育てたい資質・能力とは～」

## <講演・ワークショップで学んだことや感想 ②>

- ・「こだわり」の捉え方は、支援者の見方が変われば変えられることがわかりました。就労支援、とても参考になりました。LGBTのお話、とてもわかりやすかったです。本読みたいです。書いてほしいです。メディアとの関わり方についてもっとお話を聞きたかったです。メディアについては30年後、どんな社会になっているか不安です。今、教育の現場でできることをみなさんと考えていきたいです。子どもの思いを代弁してつないであげる。必要としている子には大きな支援だと思うのですが、現場ではそれを担任や親が過剰にやっちゃっているという現状があります。見極めが必要と思っています。(小)
- ・講演の中に時々演習が入ったことで自らが関わっている子ども達に思いをはせながらお話を聞くことができました。将来こんな大人になってほしいという親の願いを大事にしながら、また2学期子ども達と関わっていきたいと思います。特に将来を見据えた発達課題①～④について学んだことで頭が整理されてよかったです。とても楽しい講演で先生の本も読みたくなりました。(小)
- ・こだわりのある子への対応の仕方にははっとさせられました。一番こだわっているのは私たちだということに気づかされて心が軽くなった感じがします。将来を見据えた発達課題①仲良し課題②勝ち負け課題等たくさん勉強になりました。(小)
- ・4つの発達課題、仲良し課題、勝ち負け課題、こだわり課題、就労課題に関して意識的に小学校から育てていかなければならないと感じました。配慮が必要な子どもとはメタ認知の不調な子どもであり、メタ認知獲得も大きな課題と感じました。不登校の子が出てくるよう促す方法、日常場面で簡単な用を頼むことの教育効果の大きさ、そして支援する上でいかに自分を理解させるか、しかも肯定的に！ということetc.自分自身でも消化しきれない事もありますが、とても参考になったところがあります。じっくりと考えていきたいとそして実践につなげていきたいと感じました。(小)
- ・話をうかがいながら様々な子ども達の様子がうかんできました。2学期に学級づくりの中で「いろいろ困った人に出会ったときの経験」を子ども達に話し合わせてみようかと思いました。メタ認知を獲得する学年にたずさわっておりますので、がんばっていきたいとおもうところです。(小)
- ・教室の中で配慮が必要という言葉で本来の課題をみずくに排除する傾向が多くなっているように思います。「病気ではない」支援の仕方、理解によって変わっていくのだから、一人一人の自己実現を見通しながら、保護者や同僚と力を合わせ、人権意識が変革していくよう努力し続けることが必要だと思いました。(小)
- ・元気と勇気をいただいた研修会でした。子どもが大人になったときの姿を子どもと保護者と対話しながら、自分ができることを精一杯取り組んでいこうと思います。(小)
- ・25歳の姿をイメージします。(小)



# 岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

令和元年度 高教研講演会

「人生という名の旅『大人になるための支援』～学校で育てたい資質・能力とは～」

## ＜講演・ワークショップで学んだことや感想 ③＞

・「支援上の留意点」のお話で、今、自分が担任している児童の姿を思いうかべながら、考えさせていただきました。「他人事」と「自分事」へ切り替えて考えさせていくこと「よいところ探し」は実はよくないことなど、ふだんの指導の中で気をつけていきたいと思いました。LGBTのお話が出てくるとは思いませんでした。新しい支援の形を教えてくださいました。(小)

・「大人になるための支援、学校で育てたい資質・能力とは」という題にひかれて参加しました。将来を見据えて～ということ念頭に置いて、今やるべき課題をしていくことが大切ということがわかりました。傾聴、こだわりの部分参考になりました。学校の中で枠が限られているので、個別にあったやり方で、フェーディングの手続きをするのは難しいと感じました。LGBTの相談については全く未知な分野でした。(小)

・支援上の留意点やその対応の仕方、言葉がけなどとてもわかりやすく教えて頂きました。介入の仕方等、すぐ実践していきたいと思います。LGBTについてなかなかお話を聞く機会がなかったのですが、大変勉強になりました。(小)

・「経験学習」の必要性、建前と本音の指導。不登校、LGBTについてもいろいろと考えさせられました。職業に就くことの意識付けの大切さ。セリフとして様々な状況に対応できるように。「こだわり」に「こだわらない」指導。小栗先生の人柄からもたくさん学びました。書籍も買って、さらによき支援者を目指したいと思いました。(小)

・「魔法の言葉」をいくつか知りたくて今回参加しました。指示に従うトレーニングの中で「ありがとう」の言葉の大事さを学びました。一日一回、いい人になれる必然性を作っていけたらいいなと思います。現場でどんどんいかしていけたらいいなと思います。

・カウンセリング室に行くまでの道が本音が出やすいことや仲良し課題、勝ち負け課題、こだわり課題、就労課題など勉強になることがとても多かったです。特に「こだわり」に「こだわらない」ことや仕事の本質についてのお話が印象的でした。説諭、傾聴受容が機能しなくなるということも印象に残りました。機能しないのにいろいろな場面で行っています。考えながら子どもたちと生活していこうと思います。(小)

・目の前で起きている事象への対策に終始してきたと反省しました。家庭と協力して継続対応を充実させていくことを今後行っていきたいです。肯定的な言葉がけがあってからはじめてアドバイスが功を奏すること、こだわり対応の間違ひは目からウロコでしたので、さっそくみんなにも伝えていこうと思いました。日常場面での支援①は2学期からすぐに使っていけるスキルだと思いました。(小)

・貴重な話をたくさん聞くことができました。日々、暴言に苦しんでいましたので、肯定的ブーメランになるように2学期がんばりたいです。同じグループの人と色々な話をするのができてよかった。LGBT支援は初めて学ぶことができました。もっとたくさんお話を聞きたかったです。(小)



# 岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

令和元年度 高教研講演会

「人生という名の旅『大人になるための支援』～学校で育てたい資質・能力とは～」

## ＜講演・ワークショップで学んだことや感想 ④＞

・「他者批判を自己認知へ切り替えるための操作」を使ってみようと思いました。先生の著書、魔法の言葉を読んで児童対応のスキルアップを目指したいです。LGBTについてもっと詳しくお話を聞きたいです。また機会を設けて頂けると嬉しいです。(小)

・「こだわり」に「こだわらない」わかってはいても「こだわり」にこだわってしまうことが少なくありません。修行不足だと反省です。心はニュートラルにということも聞きますので、己の精神を鍛えることも必要かと感じています。自立し社会性を身につけて生きていける子に育てていくことをめざし、自己肯定感を高めていけるような支援、関わりができるよう努力したいと思いました。(小)

・発達障がい「病気ではない」という最初の説明があったおかげで、今までの自分の疑問や指導の悩みが少し解決できました。また「就労課題」の中で「つらいことがお金のもと」と思うことが離職率の低下というのでも深く頷けました。「お金を払う」と「お金をもらう」ことの違いを教えることの大切さも学び、今回の講演会の参加がさらに有意義になりました。(小)

・発達障がいは病気じゃない！ イニシアチブは病院じゃない！一番身近な保護者、学校の先生がイニシアチブを。ユニバーサルデザイン（アメリカの建築学）……どんな人にも公平にどんな場所でも使い方が簡単。発達障がいのある子は経験学習（遊びの中で）身につかない。支援者が支援対象者の「こだわり」に「こだわらない」ということ。職場が楽しいことばかりだったらお金を払わなければなりません。基本的に仕事は大変なこと、つまらないこと。配慮が必要な子どもはメタ認知の不調がある。不登校は社会現象として起こっている。きっかけが原因と別の所にある場合は不登校が改善しない、フェーディングなどなどたくさん勉強になりました。(中)

・すべての話が必ず誰か（生徒）に当てはまることで、「なるほど」とうなずきながらあっという間に時間が過ぎました。特に「就労課題」。仕事には種々の不快感が伴う。生活するための仕事、好きな物を買うための仕事ではなく……とても大事な言葉で驚きました。生徒だけでなく我が子にも伝えたいです。ワークショップでは他校の先生と話ができ、「もっとお話ししたい」となごりおしさもありました(笑)。(中)

・小学校3年生までに勝ちにこだわらず「勝敗のワクワク感が楽しい」と思えるようになることは、完璧を求める以外の価値観を育てる上でとても重要なことだと実感します。(中)

・こだわりにこだわらない。発達課題①仲良し課題②勝ち負け課題③こだわり課題。不登校のきっかけと原因の違い。自傷への対応。支援対象者に対しての声かけの仕方。「支援対象者の輝く将来をイメージできるのは学校の先生だけ」という言葉にこれからも子ども達と向き合ってみたいと思いました。(中)

・学校のシステムの中でどうするかという考え方。学校のシステムそのものをどうするかという考え方。人権教育を深めていくと根源につきあたるような気がしました。(中)



# 岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

## 令和元年度 高教研講演会

### 「人生という名の旅『大人になるための支援』～学校で育てたい資質・能力とは～」

#### <講演・ワークショップで学んだことや感想 ⑤>

・支援対象者の生徒の多くが、こだわりが強い生徒だったので、それにこだわらないことが基本ということに大変驚きました。またその一方で、その生徒の将来を考えられるのは教員のできることであることは、大変さを感じながらもやりがいにも気づくことができました。しかしながら、個々の生徒で対応が変わっていくので生徒の動機付けの意図を忘れず接していきたいと思います。また LGBT についてはこうした講演会でお話を聴くことがなかったため、大変貴重な機会になりました。またグループで話げできたので、他校の先生方の生徒の対応を知ることができ参考になりました。(中)

・通常学級に在籍する「こだわり」の強い生徒への対応を知ることができ、とてもスッキリしました。当該生徒の言動に自分自身が「こだわらない」。たったこれだけですが、2学期から実践していこうと思います。また、グループの交流で「発達障がいとは特性だよ。生徒の個性だよ」という話が出て温かい気持ちになりました。まだまだ未熟でわからない事だらけですが、今後もこのような活動があると嬉しいです(他学校・支援学校との交流など)。(中)

・今回この講演会に参加させて頂き、様々なヒントや考え方を知ることができました。私は教員として2年目なのでまだまだ模索しながらの日々です。今日学ぶことができた考え方や対話の仕方を実践し、挑戦しながら私自身の力量を高め、子どもたちの成長のために還元できるよう努力していきたいです。また LGBT に関しては、そのような生徒には出会ったことはまだありません。しかし、教育という視点とは別にしても私が興味のある分野でもあるので、改めて考える機会となりましたし、今後、学びを深めていく視点としても大切にしていきたいなと思います。(中)

・今回初めて、このような講演会(ワークショップ)に参加させて頂き、今まで考えもしないようなことがありました。それは就労時の収入についてです。不快性が伴うから給料をいただくという概念は私自身も納得させられました。中学生への「働くこと」の授業の中でも子ども達に伝えていきたいと思いました。また日常場面の支援の中で「簡単な用事を言いつける」こと、そしてそれに対して「ありがとう」というやりとりはすぐ実践してみたいことです。学級の中には支援が必要だと思われる子が少なくないので、できるところから支援をしていけたらと思います。(なかなか普段の業務の多忙さから難しさを感じていますが、)小栗先生の本を読み、もう少し夏休み中に勉強していきたいと思いました。学校に帰って他の先生にも伝えたいと思います。(中)

・「どんな大人になりたいか」これはどんな子どもにも必要な問いかけと感じました。支援の有無にかかわらず「仕事は嫌なこともある。だから報酬をいただけるのだ」という事柄等々。あたり前のことですが、実は考えていなかった(避けてきた)ことであつたと思います。目からウロコの瞬間でした。今後、小栗先生の著書も購入しながら、また2学期から子ども達と対峙していきたいと思います。(中)

・メタ認知のことや不登校対応についてとても勉強になりました。同じグループの先生方や他の先生方の考え方や指導法を知ることができてよかったです。最後に LGBT についてのことも聞けたので、これから勉強していきたいと思いました。(中)



# 岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

## 令和元年度 高教研講演会

### 「人生という名の旅『大人になるための支援』～学校で育てたい資質・能力とは～」

#### <講演・ワークショップで学んだことや感想 ⑥>

- ・今年度初めて特別支援学級の担任となり、発達障がいを抱えた子どもたいへの関わり方や進路指導などについて、少しでもいかせるものがあればと思い、講演会の案内のテーマにひかれ、参加させていただきました。小栗先生のお話やワークショップからたくさん学ぶことや気づきがあり、今日は参加できて本当によかったと思いました。支援が必要な人への対応についていろいろと勉強になりました。いただいた資料を見返し、今後の生徒指導・支援につなげていきたいと思います。(中)
- ・小学校3年生までに勝ち負けにこだわらず「勝敗のワクワク感が楽しい」と思えるようになることは完璧を求める以外の価値観を育てる上でとても重要なことだと実感します。(中)
- ・現場では要支援者(保護者含む)に対して高校を出るためのサポートに偏っていて、改めて将来を見据えた支援、導きが必要だと思いました。特別支援担当として現場で共有できるようがんばりたいです。(高)
- ・参加をぜひさせていただきたいと思っており、参加できたことにまずは感謝しております。そして内容について、今まででもそして今も関わっている生徒さんや親御さんとのエピソードの意味合いをあらためて考えさせられたり、整理したりすることができました。また、学びの不足な部分や自分の疑問も多々気づきながら勉強しようという思いを自分が感じられる研修でありました。(高)
- ・不登校の子どもを学校に復帰させたことが一度もありません。どうしたらよかったのか今も考えます。どのゴールがベターだったのかと次に会う不登校の子どもにどうしてあげればよいのか今日の講演で答えを見つけられればと思いました。納得できたことは、傾聴受容では不登校が長引く、濃密な人間関係は再び不登校に戻る、自らの失敗そのものでした。学習します。(高)
- ・今年もわかりやすくお話して頂けたのでよい学びになりました。「支援がうまくいったときにその子がどう輝いているかをイメージする」これを一人一人について取り組んでいきたいと思います。(高)
- ・ユニバーサルデザインの原則にたったご講演だったので、明日からでも実践できるところは実践してみようと思える講演でした。「仲良し課題」「勝ち負け課題」「こだわり課題」「就労課題」はとても参考になりました。不登校の「きっかけ」と「原因」が異なるというお話は全くその通りだと思いました。(高)
- ・LGBTについても学ぶことができ、大変有意義な時間でした。具体的な声かけ、セリフを学ぶことができたので、ぜひ日頃の実践に取り入れていきたいと思います。保健室対応の基本、傾聴受容が必ずしも生徒のためにならないこともある(言葉だけが残ってしまう)ことがわかり、個に応じた対応をしたいと思いました。(支)
- ・必ず、ありがとうで終われる用務、一日一回はそのような場面を作ることや子ども達との対話が大切であることを学ばせていただきました。発達障がいは病気ではない。つまり治療できない。薬は症状を緩和するだけ、長く関わる人(教員)がイニシアチブをとるのだという言葉が印象に残りました。(支)



# 岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

令和元年度 高教研講演会

「人生という名の旅『大人になるための支援』～学校で育てたい資質・能力とは～」

## ＜講演・ワークショップで学んだことや感想 ⑦＞

- ・たくさん学ばせていただきました。具体的な声かけのこと、もっとたくさん伺いたかったです。またお話を伺いたいと思いました。こだわりへの対応、就労への考えも深めていけたと思います。(支)
- ・私は特別支援学校の養護教諭として、「受容・共感」を大切に児童生徒と関わってきました。しかし、いくら傾聴を心がけて受容共感を行おうとしても全く有効ではない場面が幾度となくありました。そんな時に「じゃあどうしたら良いのか・・・」といつも考えていました。これからは、本日小栗先生のお話にあったような「日常場面での支援」を実践してみようと思います。(支)
- ・様々な対応の事例と共に傾聴、こだわり等に気をつけるべき注意点は多く、学び得る点をぜひ今後いかしていきたいと思います。不登校もLGBTも原点は社会の在り方が問われるのではないかと考えさせられました。(峰南)
- ・2年目で昨年に引き続いてのお話で何回目であってもとても参考になることが多かったです。(峰南)
- ・「こだわり」に「こだわらない」という言葉が今まで自分がつまずいていたところにはまりました。ふり返ってみるとこだわりすぎて、自分も生徒も苦しかったのだということに気づき、はっとさせられました。今後の支援にいかしていきます。(峰南)
- ・不登校と情緒的密度の関係について、これまで不登校の生徒が登校してきた際に登校してきたことをほめたり、過剰に歓迎したりすることがあったが、本日の講演を聴きそうした職員の反応が生徒へ不登校であったことを印象づけてしまうことを学ぶことができた。不登校対応について、特別な居場所を作ったら、必ず自然な場面へ戻すという支援の引き算は、生徒の将来の姿をイメージし何を支援すべきなのか、自立するためにはどのような力を身につけていかなければならないのかということを考え指導していくことの重要性を学ぶことができた。これは不登校だけでなく支援を要する生徒の指導全般に言えることだと感じた。(峰南)
- ・将来を見据えた発達課題④の就労課題のところ、仕事には不快性が伴うということも伝えることも大切とのことで、プラス面だけでなくマイナス面を伝えることも時には必要だということがわかりました。(峰南)
- ・傾聴を大事に支援してきましたが、対概念という言葉を知りました。悪いところがあるから良いところがある。やっぱりダメだと思ってしまう。勉強になりました。肯定的プーメランもとても良いなあと思いました。動機付けを行い、支援するべき方ということをしっかり理解して温かな対話のあるコミュニケーションを送っていきたいです。(峰南)
- ・就労課題について仕事が楽しいことばかりでないこと、不快性が伴いそれを含めての対価であること。当たり前のことですが、ここを生徒達が理解しないと改めて考えさせられました。(峰南)